

# 埋文

## とやま

Toyama Prefectural Center for Archaeological Operations

2019.3.29

VOL

146



八木山大野遺跡出土品(富山市大野上野割)  
《局部磨製石斧(御子柴型石斧)》

この石器は旧石器時代のもので、八木山大野遺跡のもので、御子柴型石斧と呼ばれる局部磨製石斧です。きれいに磨かれていて、当時の人の技術の高さを現代に伝えてくれています。

発掘調査最前線 ● 富山市水橋地区の試掘調査

とっておき埋文講座 ● 野尻湖の水河時代 —ナウマンゾウの生きた時代—

埋文あらかると ● 刊行！富山県出土の重要考古資料 とやまの古墳出土品

Center Flash ● 催しガイド2019

行ってこれよ ● 県指定史跡「本江遺跡」

富山県埋蔵文化財センター

# 富山市水橋地区の試掘調査

## 発掘調査最前線

### はじめに

富山県内で実施されている「農地整備事業（ほ場整備）」のなかでも、水橋地区ではこれまでの県営事業と並行して国営事業の指定を目指しており、広域かつ迅速に先進的な農業経営を進めようとしています。

こうしたほ場整備の工事に先立ち、県教育委員会では水田の下に眠っている遺跡の状況を確認する試掘調査を行い、遺跡が工事で破壊されないよう調整するための状況把握をしています。

今年度は水橋石政遺跡(1)、水橋狐塚遺跡(2)、小出城跡(3)、水橋小出遺跡(4)、水橋小池遺跡(5)、水橋専光寺遺跡(6)、水橋上砂子坂・下砂子坂遺跡(7)、水橋高寺遺跡(8)、水橋田伏遺跡(9)、田伏・佐野竹遺跡(10)、水橋北馬場遺跡(11)、水橋金広・中馬場遺跡(12)の12遺跡において、合計315ヶ所のトレンチを設定し、試掘調査しました。(番号は地図中の番号)

水橋地区は明治時代に常願寺川の流路が改修されるまで、度々氾濫の被害を受けた地域ですが、厳しい自然環境の下で営まれた昔の人々の生活を紹介します。



試掘調査でのトレンチ掘削



試掘調査した水橋地区の遺跡

### 古墳時代のムラが姿を現す

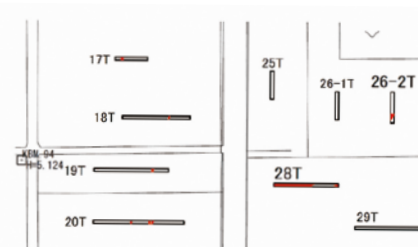
#### 水橋小池遺跡

小池地内に所在し、水橋東部保育所の東に広がる南北に長い遺跡で、ほぼ中央を下条川が北へ流れています。調査はトレンチ49ヶ所を遺跡全体に設定しました。



26-2トレンチの土坑と土師器

遺跡中央に設定したトレンチでは、微高地上に土坑、溝などを確認しまし



水橋小池遺跡のトレンチ位置



28トレンチの溝や土坑と土師器



た。なかでも26-2トレンチで確認した土坑からは、古墳時代の土師器がまとまって出土しました。遺構を掘り下げたはいませんが、出土した土師器には外面に厚くススがこびりついた甕のほか、壺や高杯の破片も多く、竪穴住居の可能性が高いと考えられます。また、28トレンチの西側で確認した溝や土坑からも古墳時代の土師器がまとまって出土しました。これらは同時期の遺物です。

水橋小池遺跡は弥生時代終末期・古墳時代前期・古代の散布地として登録されていましたが、これまでの調査では、遺構も遺物も確認されていませんでした。しかし、今回の試掘調査では遺跡中央部、以前の調査箇所から僅か20m以北に広がる微高地上に、古墳時代の集落が存在し、人々のくらしの様子がみえてきました。

## 石鋸形石器を発見!

### 水橋田伏遺跡

注目される遺物として、1トレンチから出土した縄文土器と石鋸形石器があります。出土した地点は1トレンチの西端で、古代や中世の遺構検出面となる土層(地山と考えていた層)の上面から5cm程の深さからです。



水橋田伏遺跡のトレンチ位置

縄文土器は条痕文がある小破片ですが、石鋸形石器は長さ15cm、幅7.1cm、厚3.3cmの完形で、ともに縄文時代晩期のものです。

石鋸形石器とは、厚みのある背部にやや薄身の刃部がつく鋸状の石器のことで、日常的な道具ではなく、儀礼的なものと考えられています。その形態には背部が曲線的で刃部が直線的な半月形や背部・刃部ともに曲線的な長楕円形、背部・刃部ともに直線的な長方形のものなどがあります。

水橋田伏遺跡から出土した石鋸形石器は半月形で、背部が丸みをもち刃部はほぼ直線的で、薄く作られています。背部と刃部の境は緩やかな曲線を描き、表面はよく研磨されています。この石鋸形石器が当遺跡で作られたものか、他地域から持ち込まれたものかは、ほかに出土した石器と比較できない現時点では、明らかではありません。

富山県内での石鋸形石器の出土例



石鋸形石器の出土状況



石鋸形石器と縄文土器

は縄文時代晩期の遺跡からが主で、朝日町境A遺跡で3個体、魚津市早月上野遺跡で3個体、富山市豊田大塚遺跡2個体、布尻遺跡1個体、上市町丸山A遺跡1個体のほか魚津市天神山遺跡、高岡市(旧福岡町)上野A遺跡から出土したという報告があります。また、採集資料としては立山町天林北遺跡、魚津市本江A遺跡、砺波市孫子ワバラ遺跡などの報告があります。さらに、早川荘作氏が蒐集した資料の中には大川寺遺跡、文殊寺稗田遺跡、長沢遺跡、北代遺跡、金屋ポンポン野遺跡、菅ノ谷遺跡から採集された石鋸形石器があります。県内の全体的な傾向として、長方形のものがやや多いとみられます。出土状況では境A遺跡の土坑や豊田大塚遺跡の沼地の肩付近などの遺構から出土したものは僅かで、包含層からの出土と採集されたものが大半です。

水橋田伏遺跡の地形は石割川へ向かって緩やかに傾斜しており、4・5・6トレンチで確認した微高地上には、溝や土坑を確認しました。遺物には溝に伴って出土した中世土師器や越中瀬戸焼のほか、珠洲焼や須恵器などがあり、古代や中世から近世の集落が存在したことをうかがわせます。

## おわりに

試掘調査は遺跡全体の数%だけを掘るため、遺跡の全容を浮かび上がらせることは容易ではありません。ただ、僅かな遺物や遺構であっても、その地域の歴史をひもとく貴重な資料となります。今後も埋蔵文化財の保護のために調査は続きます。(田中道子)

# 野尻湖の氷河時代 —ナウマンゾウの生きた時代—

とっておき埋文講座

野尻湖ナウマンゾウ博物館 館長 近藤 洋一



講演風景

## はじめに

氷河時代、旧石器時代はどのような環境だったのか、もし人間がいたとしたらどのような人がいたのかということを研究しています。50年間、野尻湖で発掘を行ってきました。野尻湖の発掘はユニークな発掘で、だれでも参加することができます。全国から、小学生、中学生、一般の方が参加して発掘を行っています。博物館に連絡してもらえば参加できます。再来年発掘を行います。ところが実際にやると大変です。雪の中でも発掘をするので大変ですが、それに勝るおもしろさがあります。

発掘は野尻湖の湖畔で行っています。今年の3月にも行いました。4mのグリッドが今までに200ぐらい作られていて、グリッドごとに発掘を行っています。その中からたくさんナウマンゾウが出ていて、今までにおよそ50頭が出ています。

冬になると野尻湖の水が新潟県の高田平野の灌漑用水や水力発電に使われるため、減っていくので、発掘ができるようになります。発掘は、3月の中旬から下旬までの限られた時期になります。

野尻湖の地層にはいろいろ名前があります。地層がどのように堆積しているかが、氷河期や旧石器時代を研究するのに非常に重要です。地層によって年代がわかります。今、4.9万年から3.8万年までの地層に番号をつけてT3やT7などと呼んでいます。そうすることで、それぞれの地層から出てきたナウマンゾウがいつのものかわかるようになっていきます。地質図を見ると発掘地の真ん中に断層があります。昔の地震でへこんでいて深いのでまだ掘っていません。もしかするとここから新しい発見があるかもしれないと期待しています。年代を決めることが非常に大切で、野尻湖の場合には1000年単位でわかります。地

層に1年単位の日盛りを作っているのが福井県の水月湖の年縞です。年縞博物館にも野尻湖のナウマンゾウの資料があります。年縞の縞模様のなかにナウマンゾウの年代を入れています。

## ナウマンゾウとは

これまでに野尻湖の発掘で出てきた動物は、ナウマンゾウ、オオツノジカ、げっ歯類、ウサギ、ヒシクイ、カワウ、などが出てきています。数でいうと、ほとんどがナウマンゾウとオオツノジカです。

ナウマンゾウの特徴はおでこにベレー帽みたいな突起があること、耳が小さいこと、牙が大きいことなどです。センターにも展示してあるものは一本60kgぐらいの重さがあり、牙が曲がってねじれています。このような特徴があるゾウは日本でしか見つかっていません。中国から渡ってきて、日本で進化して日本で絶滅したと考えられます。見つかる場所は約350か所あり、富山でも2か所から見ついています。北は北海道から南は沖縄まで、日本各地で見ついています。

## 野尻湖発掘の歴史について

1962年に最初の発掘を行っています。長野県と新潟県の学校の先生など理科クラブの人たち、60人ぐらいで発掘を行いました。ところが、発掘しても何も見つかりませんでした。最後になって、新潟の中学生がなにも見つからなくて面白くないから、先生に言われたところでない資材が置いてあるところを掘ったところ、大腿骨が見つかりました。これが発見、第1号になりました。その時の発見者は当時中学生でしたが、高校の地学の先生をして、現在は退職されましたが、今も発掘に来ています。その時の顧問の先生は、81歳になった今も発掘に来ています。なんと、今までの50年間すべて来ているすごい人です。

当時は暖かいところにいたゾウだと考えられていたので、復元図にはヤシの木が描かれていて、熱帯だったのではないかと考えられていました。ところが発掘をしていたら、オオツノジカの角が出てきた。ということは、オオツノジカは北方系といわれていて、暖かいところにいるわけがないと考えられていました。最近の研究ではそれほど寒くなくても生きて

いけたのではないかと考えられています。暖かいところと寒いところの生物が一緒に出てきたので、復元図が変わってきて、温帯の景色になってきました。地層を調べると火山灰が出てきたので、噴火している山が描かれました。第1回目の地層を洗って顕微鏡で調べると、花粉の化石が出てきました。特別な薬品を入れて膨らませ、色をつけるとたくさん花粉が見つかりました。花粉を詳しく調べると、トウヒ属やマツ属などの花粉が見つかりました。トウヒは標高1800mぐらい、ハイマツは標高2000mぐらいの植物です。その植物の花粉がナウマンゾウの出てきた土から一緒にでてきました。ということは当時の野尻湖は暖かい地方とはいえないことがわかり、氷河期を証明するものになりました。その結果、まわりが結氷していて、ゾウには毛が生えている図になります。広葉樹から針葉樹になっています。3回目の発掘の時には、旧石器の剥片が出てきました。人間が加工したもので、あきらかに人が作ったものです。ゾウの骨と人の作った石器と一緒に出てきたということで、図の中に人が描かれるようになりました。なぜたくさんゾウが集まって見つかるかという一つの仮説としてゾウを捕って食べていたのではないかと考えられました。

## 月と星

ヤベオオツノジカは、センターで実物大に拡大しているのはまだ小さい方です。実際はナウマンゾウに匹敵するくらい大きいです。オオツノジカについては大阪の博物館の人たちが研究しています。野尻湖のオオツノジカは中国やヨーロッパのものとは比べても、ひげがとらないといわれています。有名な化石、「月と星」と呼ばれている化石があります。この化石でナウマンゾウとオオツノジカが一緒



月と星 (野尻湖ナウマンゾウ博物館提供)



にいたことがわかります。この化石をよく見るとつけ根が切られています。なぜこうなったのかと考えると、自然に死んで流されてきたと考えることができます。しかし、ある先生は二つとも立っていたのではないかとおっしゃっていました。トーテニズムといって動物崇拜があったのではないかと考えられています。

## ヘラジカが発掘されたことから

野尻湖でヘラジカが発掘されました。ヘラジカは北緯70度より北でしか見つかっていないので、ヘラジカがいたということは野尻湖の周辺が寒かった時代であるという事が考えられます。ヘラジカの化石から2m離れたところから見つかった、オオツノジカとされていた歯がぴつたりとくっついたんです。2mずつ離れていた3つのものがピタッとくっきました。日本ではヘラジカは6例あります。うちの2例は現生のもと考えられているので、化石は4例です。岩手から2か所、野尻湖から1か所、岐阜から1か所。そのうち一番古いのは、野尻湖です。ヘラジカがいつ本州に渡ってきたのが問題になります。3万年前と7万年前が一番寒い時なのでここから見つかれば問題ないのですが、実際に見つかっているのは、そこまで寒くない地層から見つかっています。今よりも寒いがヘラジカがいるほどの寒さではない地層から見つかっているのです。なぜ、ヘラジカが来たのかということが問題になります。

見つかっている化石のほとんどがナウマンゾウで92%です。8%がオオツノジカです。出てきた年代を5.4万年前から数を数えてみました。4.4万年前～4.9万年前が3778個です。5.4万年前～6万年前はたったの11個しか見つかっていません。年代によってぜんぜん出てくる化石の数が違うということがわかります。

次に、ナウマンゾウが何頭いたかということ調べました。これは5.5万年前～6万年前に1頭いました。このときにナウマンゾウがきたということがわかります。4.9万年前から5万年前に4頭、4.4万年前から4.9万年前に15頭で一番増えました。4.2万年前から4.4万年前が10頭でここから減ってきて9頭、そしてとつぜん3.8万年で姿を消します。実は日本列島にはまだナウマンゾウはいるが、野尻湖からはこつぜん姿を消します。これはなぜかということがおもしろい話になります。

日本列島全部のナウマンゾウを調べて、いったい何万年前からナウマンゾウがいるのか調べました。一番古いのは36万年前の大阪です。大阪の地下鉄を掘っていたとき見つかりました。25万年前くらいになると増えてきます。12万年前くらい前にいっきに増えます。なぜかという12万年前は氷河時代と

しては暖かかったのです。25万年前も暖かかったので、暖かくなると増えることがわかりました。野尻湖で増えたのは暖かいときだったのです。これを分布で調べると36万年前は大阪と関東で見つかる。おそらく、中国からきているはず。25万年前にも関東まで分布を広げます。12万年前になるといっきに北海道に渡ります。野尻湖や富山で見つかるナウマンゾウの時代になると日本中に分布します。

旧石器が密集しているところにゾウがいるんです。大沢野も立野ヶ原にもゾウがいる。この道はゾウが通った道を人間が使ったかもしれないと考えることができます。実はゾウの道というのは人間が通る前から道があったと考えられます。この遺跡分布とゾウは結びつくのではないのでしょうか。

わたしの考えているゾウの来た道は、まず、中国から九州に渡ってきます。正確にいうと陸続きになっていないというのが最近の研究です。海水面は100mくらいしか下がっていないので、対馬海峡は140mあるので陸続きになっていません。しかし、対岸が見えます。ここを渡ってきて、九州に上陸して、そのころは海ではない瀬戸内海を通過して太平洋側を関東に向かっていきます。実は、ナウマンゾウの化石が多く見つかるのは東京です。地下鉄を掘るとぞくぞく出てきます。しかし、今は見つかりません。今はなぜ見つからないかという、最近の地下鉄は手で掘らず、機械で掘るから見つからなくなりました。関東地方からどこへいくかという山梨へ行きます。八ヶ岳を通過して野尻湖に来て、日本海に出たと考えました。次は柏崎、秋田青森で見つかります。山脈と山脈の間を通過して行きます。

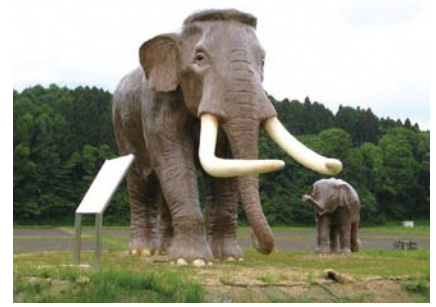
津軽海峡をどのように渡ったのかということが問題になります。実は、ゾウは泳ぐんです。鼻をシュノーケルのように浮かびながら泳ぐんです。最近の研究でゾウが泳ぐことがわかってきました。

でも、なぜ向こうに行ったのか？なぜ北へ向かったのか？は、わかっていません。

## 野尻湖発掘の今後

ナウマンゾウが見つかる場所をプロットしてどれだけ見つかるのか調べてみました。肋骨と足と頭が離れて別々の場所から見つかっています。昔の地形を調べても流された形跡はありません。ということは自然に死んだあとに、頭だけ運ばれないということにはなりません。頭の近くからヤリ状木質遺物が見つかります。肋骨群のなかから見つかっています。骨のかけらから加工した骨角器も見つかりました。

集中している場所は広い野尻湖の中でも唯一人間が狩りをしてバラバラにした場所



ナウマンゾウの復元像(野尻湖ナウマンゾウ博物館提供)

はないかと考えています。

生の骨を急激に割るとらせん形の骨片になります。化石になってからはまっすぐ割れません。衝撃をあてないとこのような形にならないので、当時は骨髓食もあったのではないのでしょうか。割った骨で道具を作っていたと考えています。学会では3.8～4万年に人類がいたかどうかということが議論されています。今の考古学者は3.8万年前日本に人類はいないと考えています。ネアンデルタール人はヨーロッパでしか見つからないので、アジアにはいないとされています。ホモサピエンスは12万年前くらい前にアフリカから出てきて、中国には5万年～4万年前に到達したと言われています。日本にはそのころいないというのが今の考え方です。日本の人類学で発掘が盛んに行われ、研究が進んでいるところは沖縄です。

湊川人は2万～2万5千年前と考えられています。白保竿根田原洞窟遺跡からは2.7万年前の南方系の人類だということがわかっています。しかし、野尻湖の3.8万年前にはまだほど遠いです。中国北京では4万年前の人類が見つかっています。

北周りでヘラジカが来ているという事は人間が来ていても不思議ではありません。

最近では、原人が台湾で発見された論文や、日本人にはネアンデルタール人に由来するDNAが50%あるという論文などが発表されています。また、シベリアにも4.5万年前に人類の痕跡が見つかっています。野尻湖人はシベリアからか、朝鮮半島からか、台湾からかやってきた可能性もあるわけです。

花粉やスモモの化石が見つかっています。食べられる化石が見つかっています。一番見つけたいのは人間の骨です。人間の骨があれば見つかるはずなんですが、ここにはないと思っています。なぜかという、ここでナウマンゾウと戦ってやられた人間がいたとしても、近くの住居したところまで持って行ってそこで埋めたと考えられるからです。

2020年、第23次野尻湖発掘がありますので、ぜひ人骨を見つけにきてください。

(平成30年11月11日第4回県民考古学講座)

# 埋文 あらかると

## 刊行！富山県出土の重要考古資料 とやまの古墳出土品

当センターは平成19年度から富山県の代表的な遺跡出土品を紹介する冊子として、「富山県の重要考古資料」を10冊刊行してまいりました。

今年度は第11集として、当センター所蔵品の中で富山市勅使塚古墳、高岡市板屋谷内C6号墳、氷見市加納南9号墳・10号墳の出土品を紹介します。古墳出土品の多くは当時の政治の中心であった畿内政権から配られたものとされ、古墳の年代や被葬者の地位・立場を表していることから当時の社会を理解するために重要なものです。

富山県の貴重な文化財に触れていただき、関心を深めていただければ幸いです。



勅使塚古墳出土品



加納南9号墳出土品



板屋谷内C6号墳出土品



加納南10号墳出土品



## 【展示室】

### 企画展

#### 「古代へのとびら2019」

2019年4月16日(火)～9月19日(木)

富山県内で発掘された出土品をとおして、ふるさとの先人の暮らしを紹介します。

展示を見て楽しく歴史を学びましょう。社会科の学習にもご活用ください。



縄文土器【布尻遺跡】

### 特別展

#### 「標式土器 HYOUSHIKI」

—私たち研究者の縄文時代史の編み上げかた—  
2019年10月4日(金)～2020年3月8日(木)

半世紀を迎えつつある本県のこれまでの標式土器研究をもう一度振り返りつつ、標式土器とは何か、どんな意味があるのか、その裏に隠されたエピソードなどを交えて紹介します。



縄文土器【境A遺跡】

### ミニ企画展

#### 「春の虫干し展」—重要文化財の風通し—

2020年3月14日(火)～2020年4月2日(木)

当センターが所蔵する国重要文化財「境A遺跡出土品」等の保存状態の定期点検を兼ねて、風通しの様子を公開するものです。ヒスイの玉や土器、石斧を毎年少しずつ展示します。どれが出るかはお楽しみです。



境A出土玉類【境A遺跡】

## 【収蔵展示室】

### 常設展

#### 「小竹貝塚展」

2019年4月16日(火)～2020年4月2日(木)

日本海側最大級の貝塚であり、91体の埋葬人骨が出土した小竹貝塚を見てもらいます。あわせて、小竹貝塚に関する最新研究の成果を展示し、より興味をもっていただきます。



骨角器【小竹貝塚】

### ■県民考古学講座

考古学の入門編から近年の発掘調査成果まで、当センター職員を中心に著名な講師も交え、わかりやすく解説する講座です。2019年度は、7月より全6回の開催を予定しています。

### ■富山の歴史出張プロジェクト

市町村教育委員会と連携し、地域住民に広く地域の埋蔵文化財や歴史に触れる出張展示会や考古体験教室を開催します。地域の遺跡からの出土品に触れながら話を聞いたり、土器づくりや火起こしなどの体験をしたりすることができます。

### ■ふるさと考古学教室

親子で楽しく学ぶ考古学教室です。勾玉づくりやガラス玉づくりなどの古代体験を通して、先人の知恵や技を習得します。

- ・開催日 7月29日(月)～8月1日(木)、3日(土)  
5日(月)～8日(木)、10日(土)
- ・対象 小学校4・5・6年生とその保護者

### ■子ども考古学クラブ

ちょっと専門的に、とやまの古代について学ぶ講座です。

- ・開催日 8月19日(月)、20日(火)、21日(水)
- ・対象 小学校6年生

### 人のうごき 4月1日付での異動をお知らせします

- 退職 副主幹 高橋 真実
- 再任用終了 主任専門員 神保 孝造
- 任用終了 文化財保護主事 久々 忠義

- 転出 主任 町田 尚美 (公財)富山県文化振興財団へ  
社会教育主事 橘 泰弘 高岡市立戸出西部小学校へ
- 転入 係長 青山 裕子 (公財)富山県文化振興財団から  
係長 朝田 亜紀子 (公財)富山県文化振興財団から  
社会教育主事 小嶋 剛 高岡市立福岡小学校から  
文化財保護主事 松井 広信 生涯学習・文化財室から

# 行ってこられよ —《80》

今度の休日、ちょっと出かけてみませんか。



## 県指定史跡「ほんこういせき本江遺跡」

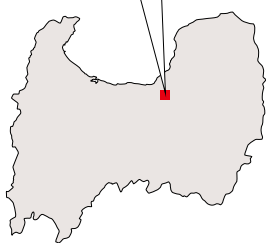
滑川市本江

「本江遺跡」は、昭和46年、ほ場整備に先立ち発掘調査が実施され、縄文時代と古墳時代の複合遺跡であることが確認されました。

竪穴住居跡の前に立ち、周りの景色を眺めていると、当時ここで生活していた人々の息づかいが聞こえてくるようです。



- 鉄道  
富山地方鉄道「中加積駅」から車で10分
- 自家用車  
北陸自動車道滑川ICから車で7分



### 編集後記

今年は冬の降雪がとてもしなかったので、春の訪れがはやく感じます。センターでは4月からの展示の準備を行っています。たくさんの方の来館お待ちしております。(担当 米田)

### 富山県埋蔵文化財センターニュース「埋文とやま」vol.146

平成31年3月29日発行 編集／富山県埋蔵文化財センター 〒930-0115 富山市茶屋町206-3 TEL076-434-2814  
URL <http://www.pref.toyama.jp/branches/3041/maibun/>



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

